

# 時局に思う



日本遺族会会長  
参議院議員

## 水落敏栄

熊本、大分の地震で犠牲になられた方々に心よりご冥福をお祈りいたします。また、被災され現在も不自由な暮らしを余儀なくされている方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

自民党は、四月十五日熊本地震対策本部を設置し、熊本選出の議員を現地に派遣し、被害状況の把握に努め、こうした情報をもとに、被災自治体の災害復旧事業への国の補助率を上積み

する激甚災害指定の政令をただちに閣議決定しました。

安倍総理、谷垣幹事長も現地入りし、特に被害の大きかった益城町、南阿蘇村等を視察し、政府は復旧に向け、平成二十八年度補正予算案を五月十三日も閣議決定し、国会提出する方針で、早期の成立を目指しております。

さを感じております。

私は五月十日に熊本市内に入らせていただきました。熊本城はじめ、風光明媚な景色は姿を変え、遺族会館は被災建築物応急危険度判定で要注意を受け、今後の復旧にはかなりの時間を要する見込みで、被災された皆様を思うと胸が締め付けられました。

## 問われる政治の力 震災からの復興に向けて

被災地のニーズに機動的に対応出来るよう「熊本地震復旧等予備費」を計上し、更に生活再建支援金の支給等、早急な被災者支援に必要な経費を別途盛り込む予定にしております。政府

与党一丸となって、被災者の生活再建に全力で取り組んでおりますが、まだまだ手が届いていないことに、何とも、もどかし

私の故郷新潟県においては中越地震、中越沖地震、東日本大震災の翌日に起きた、長野北部地震など、地震が多く発生し、たくさんの方々被災されました。

中越地震は、私が国会にお送りいただいた平成十六年に私の故郷新潟県十日町地域において発生し、慣れ親しんだ故郷が

被災地となり、大切な人々が傷つく様子を目の当たりにし、私も深い悲しみに襲われました。しかし、自らに与えられた使命に省み、迅速に、被災者の方の生活を復旧し、復興へ導くか、協議を重ね、私は激甚災害指定の手續きに奔走し、学校耐震化に尽力しました。

そして中越地震から十一年余り、今、私たちが考え行っていることは、震災に強いまちづくりであります。生活インフラの基礎である道路やトンネルは国づくりの基礎であり、大震災にも負けない交通網の整備に力を尽くしています。

今こそ、政治の力が問われる時です。今回の地震にも、これまでこうした経験を活かし、迅速に、復旧、復興に向けた施策を打ち出し、被災された方々に寄り添い続けることをお約束いたします。